

芹沢光治良先生 と

『過去』『現在』『未来』の私

2022年6月19日(日)

沼津 芹沢光治良文学愛好会 第113回定例会

折笠 公德

光治良先生を想う時、

- ・『過去』の私はどのような御導きをいただいたか
- ・『現在』の私はどう生かされているか
- ・『未来』の私はどうしようとしているのか

ここでじっくり考え、整理し、これから生きる上での指針を明確にし、実践行動に移していきたい。

まさしく、この報告書は私の人生の履歴書であり計画書である。

『過去』の私はどのような御導きをいただいたか 1965年1月(7歳)～2019年12月(62歳)

1957年	東京葛飾生まれ	実家は町工場(寅さんのタコ社長のような工場)
1965年	光治良先生との出会い	“人間の運命”の本の存在を知る
1993年	光治良先生の死と友の会入会	もっと早く入会していれば・・・
1994年～	芹沢文学に目覚め人生を猛進	その根底には光治良先生が常に後押ししてくれている
2006年～	“人間の運命”の影響	実務力と合わせ、人間力が必要になってきた
2012年～	自己テーマ「人間らしく生るには」の追求	自分の心・体・頭を鍛え、人を知る
2013年	夢の様な出来事	芹沢先生のお嬢様と御対面
2016年	宗教探索の旅 天理教	天理教は日本人に適した宗教であると思う
2019年	6年ぶり光治良先生を訪ねて	光治良先生の言動の再理解、更なる追及を決心
2019年	“天の調べ”再読	自分の事の様に文に親近感と愛おしさを感じる
2019年12月31日	会社退職	退職理由は自己実現

『現在』の私はどう生かされているか 2020年1月(62歳)～2022年5月(64歳)

2020年1月～	禪と筋トレ	「心」と「体」と「頭」の健康。健康最優先
2020年1月15日	エッセイ集を初出版	『人間の運命』の人間の生き方を現代風にトレース
2020年3月～	情報ビジネス	情報ビジネスは幸せな時間を売る仕事である
2020年3月	“サムライの末裔”読む	芹沢文学の描写の鋭さと人間の葛藤表現の凄さを再理解
2020年10月15日	エッセイ集第二弾出版	光治良先生の現地現物的な考え、歴史観を参考
2022年5月	“父、芹沢光治良、その愛”を読む	今まで知らなかった人間・芹沢光治良を改めて知ることができた

『未来』の私はどうしようとしているのか 2022年6月(64歳)～

2022年6月～	「人として何が大切か、真の幸せとは何か」	光治良先生の教えとエンジニア思考を融合
2022年6月～	地域貢献	「世のため、人のため」ができていないため
2022年6月～	芹沢光治良先生 更なる理解	芹沢文学読破、神シリーズ再読

- 利他の心
- 家族を大切にすること
- 正しく生きること
- 神を敬うこと
- 文学は物言わぬ神に言葉を与えるもの
- 苦難の乗り越え方
- 物事の価値観
- 文章で自分の考えを訴えること
- 芸術(絵画、音楽等)の素晴らしさ
- 故郷の大切さ

1) 1965年 光治良先生との出会い

光治良先生との出会いは1991年34歳、30年前とっていた。

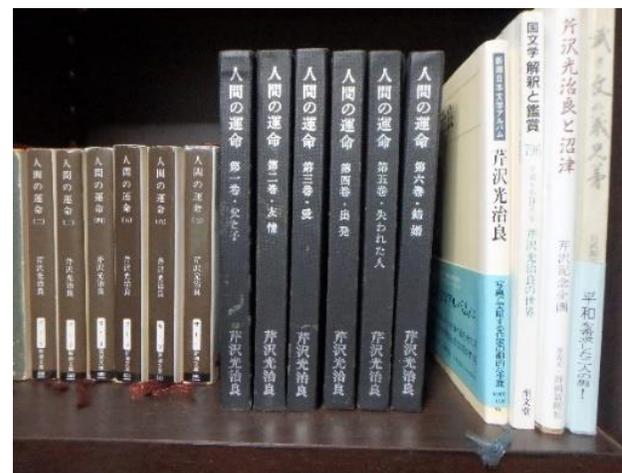
- ・東京日野駅前にある本屋で、本の前で体が動かなくなった。
- ・それが“神の微笑”との出会いであった。

実は、それは再会であった。

1965年7歳の頃、57年前に親戚の本棚にて“人間の運命”と出会っていた。

- ・そしてその本がなんと今、私の本棚にある。
- ・まさしく、神のお導きだと思う。
- ・どの様なルートで私の所に舞い降りたのか、まったく記憶がない。

運命の出会いとしか思えない。



人間の運命 第一巻(父と子)～第六巻(結婚)
新潮社昭和1964年発刊

2) 1993年 光治良先生の死と友の会入会

1991年 “神の微笑”を読み始め. その後“神の慈愛”“神の計画”
“人間の幸福”“人間の意志”“人間の命”“大自然の夢”“天の調べ”
をとり憑かれた様に読み続けた。

そして、2年後1993年8月“天の調べ”の本を手にとった時、
光治良先生の死を知った。

本の表紙帯びに以下に記されていた。
『大自然の神の深い愛を伝え生命の物語。
96歳で生涯を終えた著者最後の書下ろし長編小説。』

私は、この時、師を亡くした深い悲しみと、何故もっと早く友の会会員になっ
ていなかったのかと大きく悔やんだ。

友の会になっていれば生前の光治良先生にお会いできたかもしれない。

痛恨の後悔の元、その年に友の会に入会した。

その後、一ヶ月に一回の会誌で最新情報を知り、一年に一回は文学館を訪れた。

出典 インターネット



友の会の様子

3) 1994年～ 芹沢文学に目覚め人生を猛進

光治良先生は私の30代後半から40代前半に掛けての人間形成に大きな影響を与えている。

小説“巴里に死す”“人間の運命”“教祖様”を立て続けに熟読した。
並行して1995年“新潮日本文学アルバム 芹沢光治良”、1996年“芹沢光治良と沼津”、
1996年“武と文の義兄弟”、1997年“国文学 解釈と鑑賞 特集芹沢光治良”の解説書
等を読み、さらに深く光治良先生を知ろうとした。

人生を猛進していた。

その根底には我が師と仰ぐ光治良先生が常に後押ししてくれている
とっていたことが大きい。

この頃の私は、エンジニアとして一番実務に脂の乗り切った時期であり、
大型トラックの設計に没頭していた。

ピーク時、土日に家へ持ち込んでの仕事も含めれば残業180時間は
超えている。仕事はとても厳しかったが楽しかった。

合わせて、私には3人の子供がいるが、まさしく生存危機にある時の
子孫保存の本能が働いていたと考えられる。



当時、私が設計していたトラック

4) 2006年～ “人間の運命”の影響

40代末、部長職になると、実務力と合わせ、人間力が必要になってきた。その時、とても役に立ったのが“人間の運命”であった。

一つ下の職制階級室長(課長の一つ上)に比べて仕事が10倍はたいへんになった。それは、目まぐるしく変化する環境と周りのいろいろな人たちとの人間関係の中、悩み苦しみがき、そして喜び、人間としてのあるべき姿を追求、実行していく姿が、まさしく“人間の運命”そのものであったからだ。



技術管理部 部長時代

その後50歳にて部内や社内に毎日発信するブログの骨格をなすことになる。

まさしく、“人間の運命”が壮大で総合的に描いた日本の歴史、天皇の存在、戦争の悲しみ、人間の本質を常に考える事、宗教観、親子のあり方、仕事観等々を自分の立場に置き換えトレースしたのである。

6年間1日も休まず、約700のブログを発信し続けたことも光治良先生の忍耐力を見習っている。

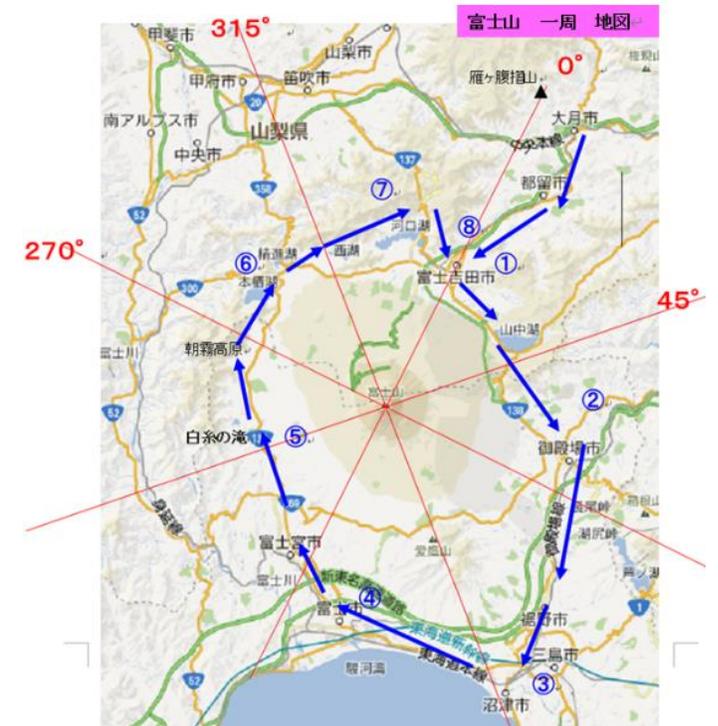
過去 5) 2012年～19年 自己テーマ「人間らしく生きるには」の追求

更にブログに続くものとして、自分の心・体・頭を鍛えため、人を知るために、1テーマ/1年を決め、チャレンジ・修行を実施。詳細レポートにまとめる。

人、歴史、宗教、自然、文化、生活等を歩くことにより自分自身の5感と足で探索。

- ◆2011年: 甲州街道(日野～下諏訪)徒歩の旅 歩行距離178.6km
歩行時間39時間51分 目的地に向かって歩き続ける修行
- ◆2012年: 日本一富士山が美しく見られる大月秀麗富嶽十二景を訪ねて
19峰登山 自然との戦いの修行
- ◆2013年: 富士山一周徒歩の旅 歩行距離178.8km
歩行時間45時間58分 自身の5感を研ぎ澄ます修行
- ◆2014年: 東京23区探索徒歩の旅 歩行距離:469km
歩行時間142時間10分 感性の修行
- ◆2015年: 神奈川の歴史を訪ねる徒歩の歩行距離:181km
歩行時間66時間23分 日本の未来予知の修行
- ◆2016年: 宗教とは何かについての探索の旅(神道、仏教、キリスト教、イスラム教、天理教、創価学会)
「人間らしく生きるには」の追求は、心と頭と体の修行
- ◆2017年: 人間らしく生きる を考える上記集大成の旅
人間になるための修行
- ◆2018年: 人間、その「心」: 人、心、体、頭の更なる修行
 - ①「心」を向上させるための実践行動を実施
 - ②科学的に「心」とは何かを追究
- ◆2019年～: 人間、その「心」

2. 富士山一周徒歩の旅



例 ルート及び写真撮影地

「人間らしく生きるには」の追求は、一生の自己テーマとして追求して行く。9

過去 6)2013年 夢の様な出来事

富士山一周徒歩の旅の終了時、「芹沢光治良朗読会 & ミニコンサート」に参加

尊敬する芹沢先生のお嬢様が出演されるということで、どうしても、この会に参加したかった。

早めの12時に会場へ。

なんと！ロビーでお嬢様とスタッフが御食事中に飛び込んでしまった。

光治良先生を尊敬している事、元文学会会員だった事、富士山一周の旅を今日終えた事、日本一富士山が美しく見える大月に住んでいる事などなど、話に花が咲き、最後には記念撮影まで。

夢の様な出来事に感動で声が震えていた。

これは富士山一周徒歩の旅を今日やり終えた私への光治良先生の御褒美かもしれない。



娘様たちと記念撮影



文子様と玲子様¹⁰

過去 7)2016年 宗教とは何か 宗教探索の旅 天理教

天理教に興味を持ったのは光治良先生の「教祖様」と出会った時から始まる。

光治良先生の宗教観はインターネットによると『芹沢の文学作品においては神や信仰を追求する主人公の姿、「神様」の登場などの描写が度々見られる。彼にとって神や信仰の問題が生涯を貫くテーマであるからである。芹沢の信仰の立場を語ると、天理教との関係から語らなければならない。』

光治良先生に出会って23年、今回宗教そして天理教を考える機会があることは私にとって、この上にはない喜びである。

天理の旅を終えての感想
天理教は、教え、祭典、教育、文化、行動から“生きることを教えるもの”として日本人に適した宗教であり、人間学、道徳心に最も則していると思う。ただし、一新興宗教にしては規模が大き過ぎ、至るところで大きな財力を感じる。



天理教本部前的大通り

8) 2019年 6年ぶり光治良先生を訪ねて

(1) 愛好会代表の和田安弘様に御挨拶

初めてお会いした時と同じように、おやさしそうであり、かつ思慮深い人間味を感じさせていただいた。

(2) 芹沢光治良記念館を訪ねて

主事の剣持直樹様に、たいへん丁寧に企画展「光治良と川端康成」を御説明いただいた。

(3) 感想 (沼津朝日新聞への投稿文 抜粋)

光治良先生の印象は、芯はお強いがお優しい。冷静でおとなしいが、曲がったことが大嫌い、だれにでもはっきりものを申す。縁の下の力持ちで大きな仕事をするが目立たない。家族や知人をとても大切にする。一言で言うと利他の人である。康成先生の印象は、気が小さいところがあって我儘。人を選んでからはっきりものを申す。目立つことが好きで全面的に自分を主張する。女性を溺愛するが、家庭は持たない。一言で言うと自我の人である。

お二人の綿密な関係の中で、光治良先生の言動は人間としてあるべき姿”利他の心“を我々に無言で教えてくれている。



和田代表と記念撮影

7月10日(土)、6年ぶり、小説「人間の運命」の出版記念会に出席し、他は私に光治良先生と川端康成先生との関係について話した。光治良先生は、小説「人間の運命」の出版記念会に出席し、他は私に光治良先生と川端康成先生との関係について話した。光治良先生は、小説「人間の運命」の出版記念会に出席し、他は私に光治良先生と川端康成先生との関係について話した。

光治良先生との出会い

折笠公徳

光治良先生の印象は、気が小さいところがあって我儘。人を選んでからはっきりものを申す。目立つことが好きで全面的に自分を主張する。女性を溺愛するが、家庭は持たない。一言で言うと自我の人である。康成先生の印象は、気が小さいところがあって我儘。人を選んでからはっきりものを申す。目立つことが好きで全面的に自分を主張する。女性を溺愛するが、家庭は持たない。一言で言うと自我の人である。

9) 2019年10月 “天の調べ”再読

30代に読んだ時の印象と60歳で読んだ印象はまるで違うものであった。今は、まるで自分の事のように文に親近感と愛おしさを感じる。

“天の調べ”より

『私は1993年の元旦以来、おだやかに晴天がつづいている大空を、書斎の窓から仰いで、地上の人類が、親神の子として、等しく平安でありますように、合掌して祈ったが、部屋中に、あの「大自然の調べ」が、静かにひびいていた。

1993年年1月3日のことだった。これでよしと、ペンをおいて、大きく呼吸した。』

これでよし…… 私はこの一言は光治良先生が御自分の長い一生を振りかえって、十分納得し、十分満足し、最後の言葉として発した非常に重い言葉だと思う。

その後、光治良先生は1993年3月23日、普段通り原稿執筆の後、午後7時、老衰のため自宅で死去された。その年の7月10日に、この“天の調べ”発行される。最後の作品だった。

神は、光治良先生にこのシリーズを書き終えるまで命を与えたのだと思う。

『生も死も ただこの日 一日 よろこびて 生きるのみ』

そして、私は38年間勤めていた会社を辞める最後の決断をした。



進学、就職、結婚と同等以上の人生の決断だった。

退職理由 自己実現

1) 自分の夢(やりたい事)のために

- ・世のため、人のために
- ・人間力を磨きアウトプットしていきたい

2) 会社に対する思い

- ・入社～60歳定年まで会社の仕事に常にベストを尽くしてきた
- ・エンジニアとして技術を、マネージャとして人間力を磨いてきた
- ・62歳シニア社員の自分はベストを尽くしているとは思えない

3) 何故今か

- ・自分に時間は無限にあるわけでもなく、まさしく今が※黄金の時代である
※黄金の時代：60歳～75歳今までの知識、経験が十分蓄積され、体力、気力が伴う時期

【参考】

チャールズ・チャップリン曰く

人生に必要なものは、勇気と創造力。それと、ほんの少しのお金。

自分の夢(やりたい事)のために

ホップ(2020年)・ステップ(2021年)・ジャンプ(2022年5月)

(1)世のため、人のため、ちょっと生活のため

- ・書籍：エッセイ本出版、小説構想
- ・情報ビジネス：ホームページやブログなどの作成技術習得と運営

(2)人間力を磨き(「人」を知り「心」「体」「頭」を鍛える)アウトプットしていく

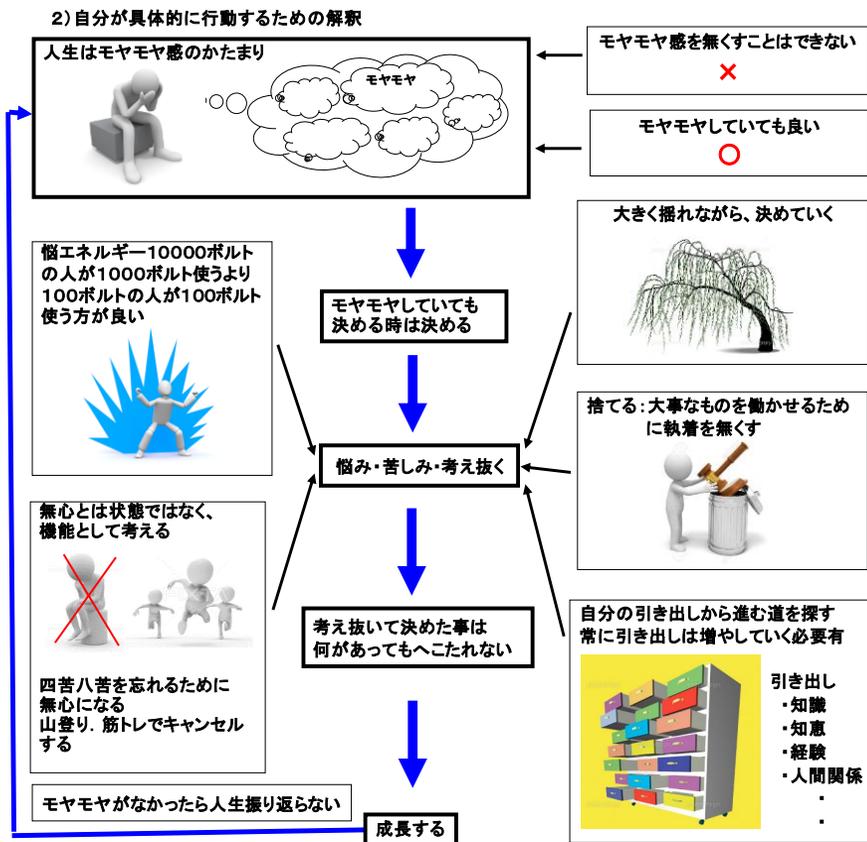
- ・読書
- ・禅
- ・筋トレ
- ・旅

現在 2)2020年1月1日～ 禅と筋トレ

「心」と「体」と「頭」の健康。健康最優先。
光治良先生に健康上の苦しい御経験と長寿の秘訣を教えてくださいました。

・いろいろな宗教や哲学を
学び経験している中、
最も集中しているのが「禅」
(右記は禅講座のレポート)

・体を動かすことは大好きで、
最も力を入れているのが
「筋トレ」



禅と筋トレは、やっていることは全く違うし、心、頭、体の鍛え方も違う。
が、究極は「人として正しい行動をとる」に向っていると思う。更なる修行を積む

“全力で突っ走れ！ 蔵出し 折乃笠部長ブログ”

https://peraichi.com/landing_pages/view/orinokasa

「もし、この“折乃笠部長ブログ”をやらなかったら、“人間らしく生きる”という一生のテーマにいきつかなかったでしょうし、今の自分はなかったと思います。

まさしく“50にして天命を知る”でありました」

6年間休まず更新し続けた七百余の作品中からグッとくる名作を厳選してお届けします。

私の尊敬する元社長からの推薦文

折乃笠公德さんは「とっても素敵なお人」です。「面白い人」「好奇心旺盛で、前向きな人」。

お母さんが旅先で倒れ、一カ月の闘病生活のあと亡くなられた話、飼っていた犬や猫が死んでしまう話が出てきます。死というきわめて深刻な出来事を淡々と冷静に述べている折乃笠さんは、ひよっとした卓越した宗教家かもしれません。

この本を通じて、私は折乃笠さんに人生の生き方を教えてもらっていると思います。

この本は、光治良先生が言われる人間の生き方を、私なりにほんの少し現代風にトレースしたものである。



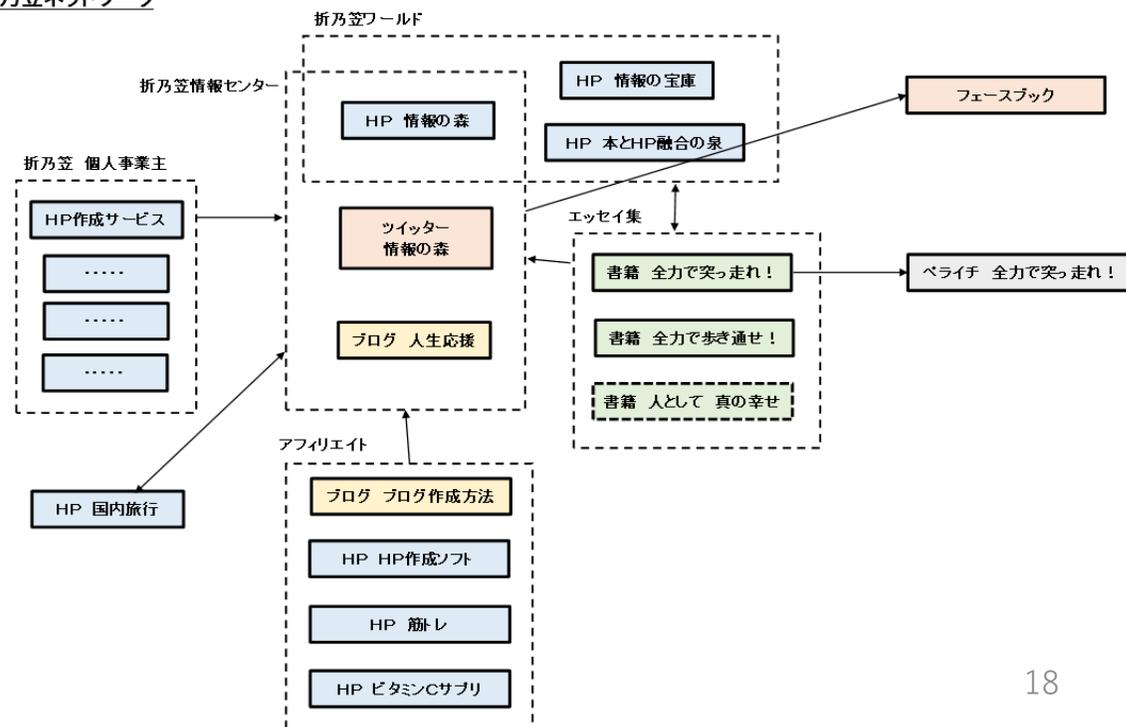
4) 2020年3月～ 情報ビジネス

情報ビジネスは、情報を売る仕事ではなく、「幸せな時間を売る仕事」である。

- ・60の手習いからスタート、その後計画的に習得 (ホームページ→フェースブック→ブログ→ツイッター)
- ・いつの間にか、「お宅」になっていた
- ・折乃笠ネットワーク構築 (自己満足の世界)
- ・儲からない、そんなに甘くない
- ・それでも・・・ 夢はある、希望もある、無いのはお金だけ

		2020年												2021年											
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
ホームページ作成ソフト	初めが自分で更新できる 最短ホームページテンプレート	購入																							
		コピーで作っている																							
		HTML言語を徹底的に習得																							
		HPを本格的に作成(自己PR、HP作成サービス、アフィリエイト)																							
	シリウス																								
	買込 HTML																								
ブログ	シーサーブログ (無料ブログ)																								
	買込 ワードプレス																								
	アンリミテッドアフィリエイト ワードプレス																								
ツイッター																									

折乃笠ネットワーク



(1)サムライの末裔

私、小説を読んで涙したのは十年ぶりだ。

娼婦リリーがむごい運命に流されながら、必死で生きて行くが、最後まで幸せになれなかった。

他の人々も戦争や原爆という地獄の中で、自分の主張を曲げない様に生きていく。

改めて、芹沢文学の描写の鋭さと人間の葛藤表現の凄さを再理解することができた。



“全力で歩き通せ！折乃笠部長 徒歩の旅”

<https://oriizumi.com/page2.html>

「歴史は、ロマンだ」前作『全力で突っ走れ』では歴史や自身の半生、人生観について熱く語った折乃笠部長が、今回は自身のライフワークともいえる徒歩の旅に挑む。

“全力で歩き通した”東京23区から厳選した6区、大月-日野間、そして神奈川県を訪ね歩く旅。ユーモア溢れる語り口で、歩きながら見つけた名所を紹介し、その地の歴史をひもとき、これからの日本について考える。

私の尊敬する元上司・常務役員からの推薦文

楽しい時間を過ごすことは心が穏やかになり、幸せな気分になれるのだとこの本を読めば実感することができる。自分で決めたルートを歩き通した後のビールのうまさも伝わってくる。

幸せかどうかは他人が決めるものではなく、自分が決めるものだとは思ふものの、著者はつくづく幸せな人だと思う。

この本は、光治良先生の現地現物的な考え、歴史観、そこから見えてくる将来の予測などを意識しながら、私なりに考え実行した記録である。



5月20日(金)次女・野沢朝子様がお父様、御家族について書かれた御本を読み終えた。

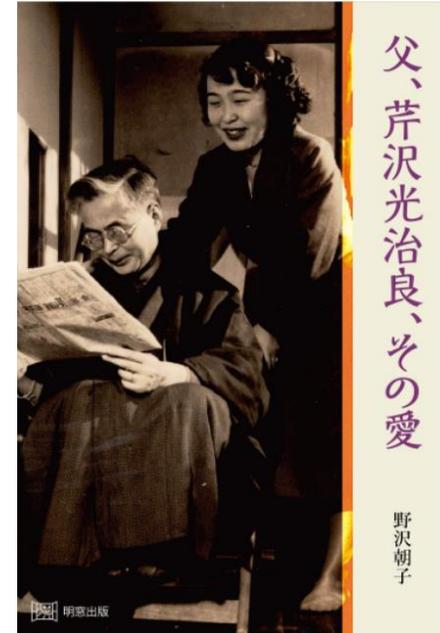
ポイントは（御本から）

『父は生まれながらの篤実な人間というわけではなく、生きることで修行して、書くことによって昇華できたと思う。
生きた証しとして作品を残すことができた。』

今この時に、この御本を読んで本当に良かったと思う。

その理由は、

この御本は良い意味で『暴露本』だからである。
今まで知らなかった人間・芹沢光治良を改めて知ることができた。
私自身の将来を考える時、少し肩の荷が軽くなった様な気がする。



位置付け

- ・一生のテーマ 「人間らしく生きる」

自己実現(～75歳) 自己超越(76歳～)



- ・その中の要素 「人として何が大切か、真の幸せとは何か」

自己創造(～2022年12月 65歳)

想い (モヤモヤしている)

1) 「人として何が大切か」

- ・何事にも耐えられる自分
- ・豊かな人間性

2) 「真の幸せとは何か」

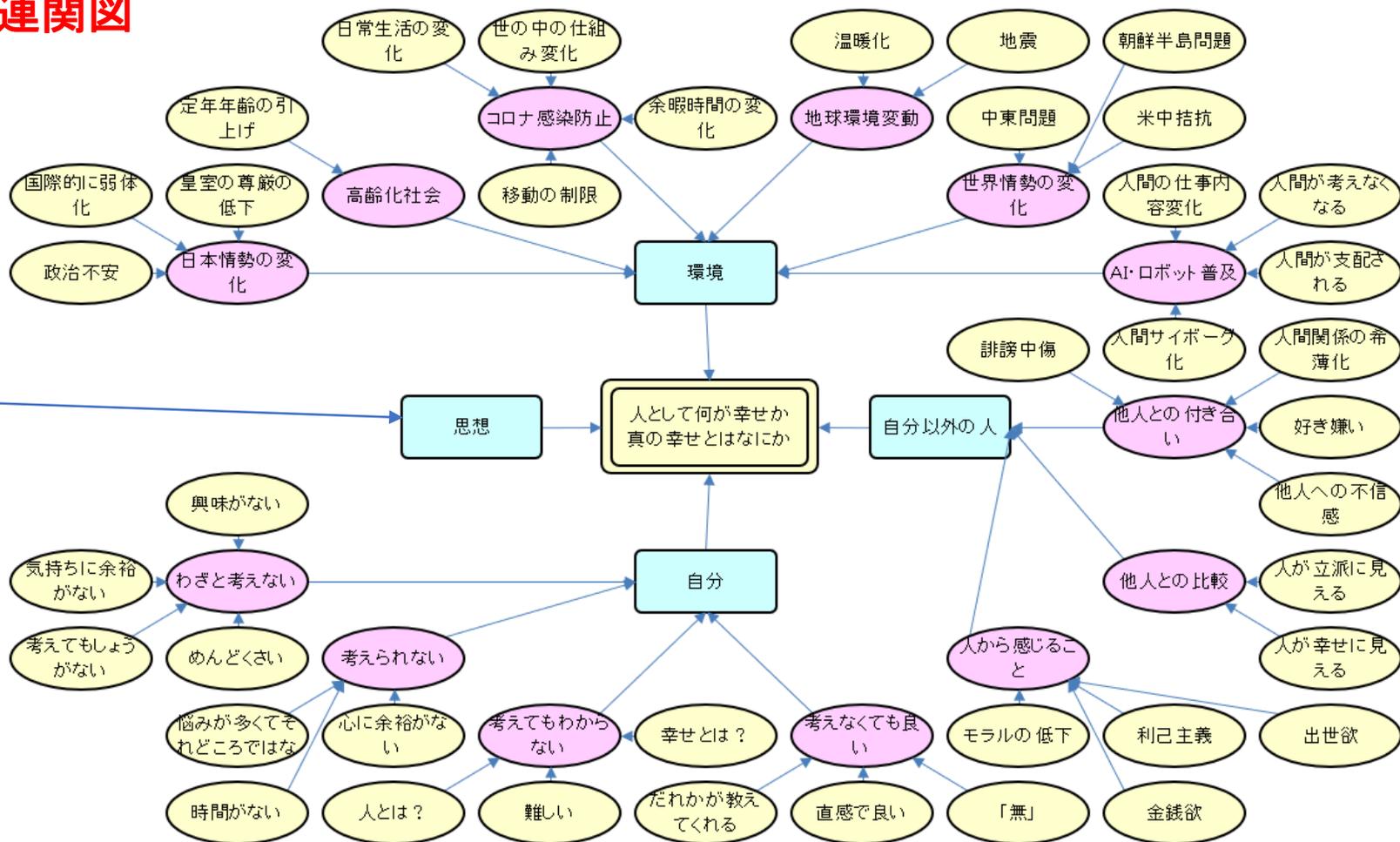
- ・魂を磨いて、自分の心を高める
- ・利他の心を持って、世のため人のために尽くす

仮説と検証を進める

- ・光治良先生の教えとエンジニア思考を融合
- ・QC(問題解決)ストーリーを適用

1. 大要因を「自分」「自分以外」「環境」「思想」とした
2. 中小要因を洗い出し、連関図にまとめ見える化した
3. 思想の引き出しは思い付きレベルで整理がついていない

連関図

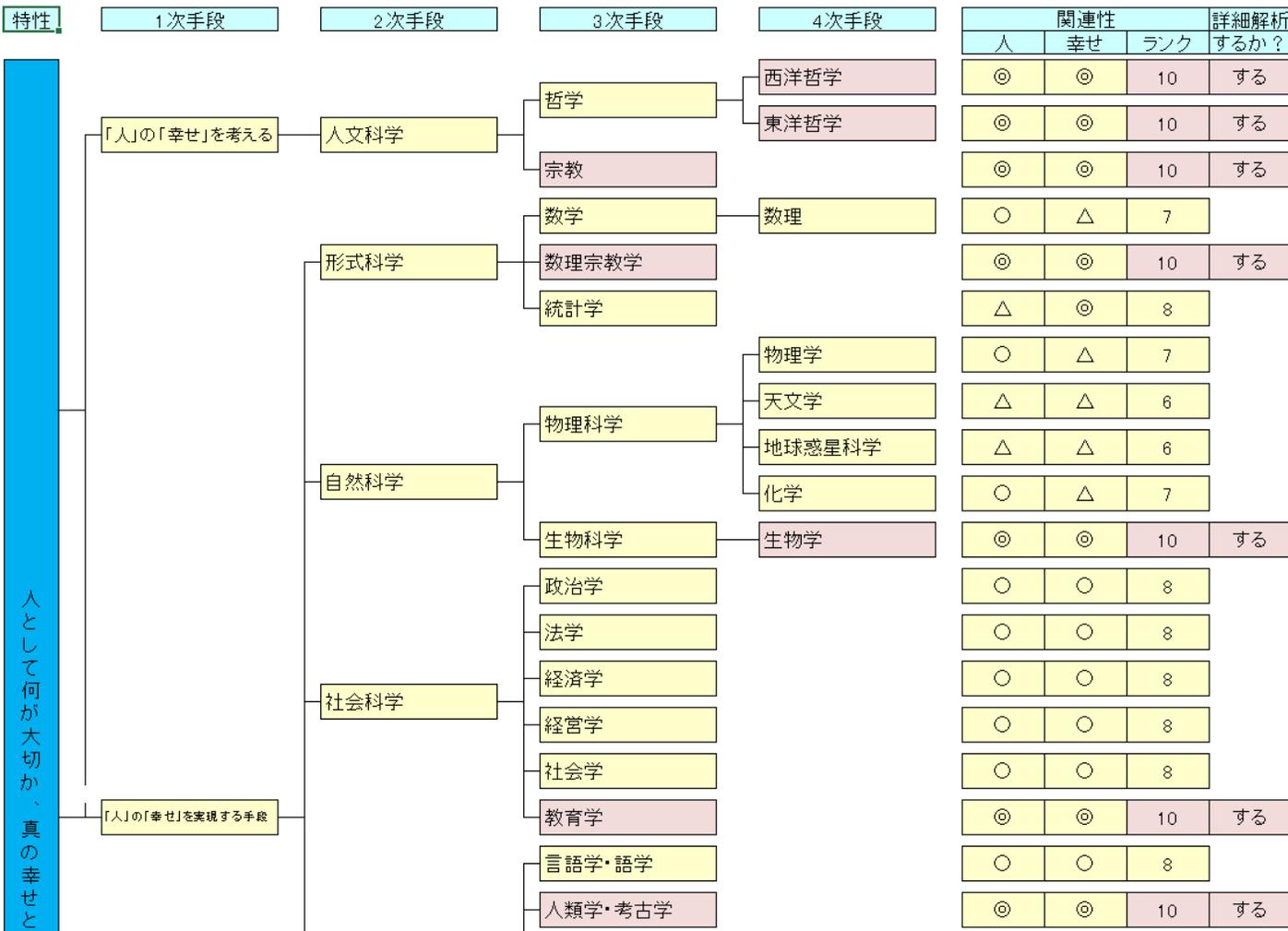


未来 1) 2022年6月～「人として何が大切か、真の幸せとは何か」 3/5



系統図

思想を学問的分類に則って整理し、系統図で見える化した



特性大分類(1次手段)

- ◆「人」の「幸せ」を考える → **哲学、宗教**
 - ・哲学、宗教は、「幸せ」を定義し、「人はどう、『幸せ』に生きるか」という問いに向きあうものである。
- ◆「幸せ」を実現する手段 → **それ以外の学問**
 - ・医学は「健康」から
 - ・工学は「モノづくり」から
 - ・経済学は「富(資産)の循環と分配」から
 - ・法学は「世の中のルール」から
 - ・教育学は「人を育てること」から
 - ・音楽、絵画、文学などの芸術は「表現とその解釈」から「幸せ」を実現しようとする。

右の表 関連性

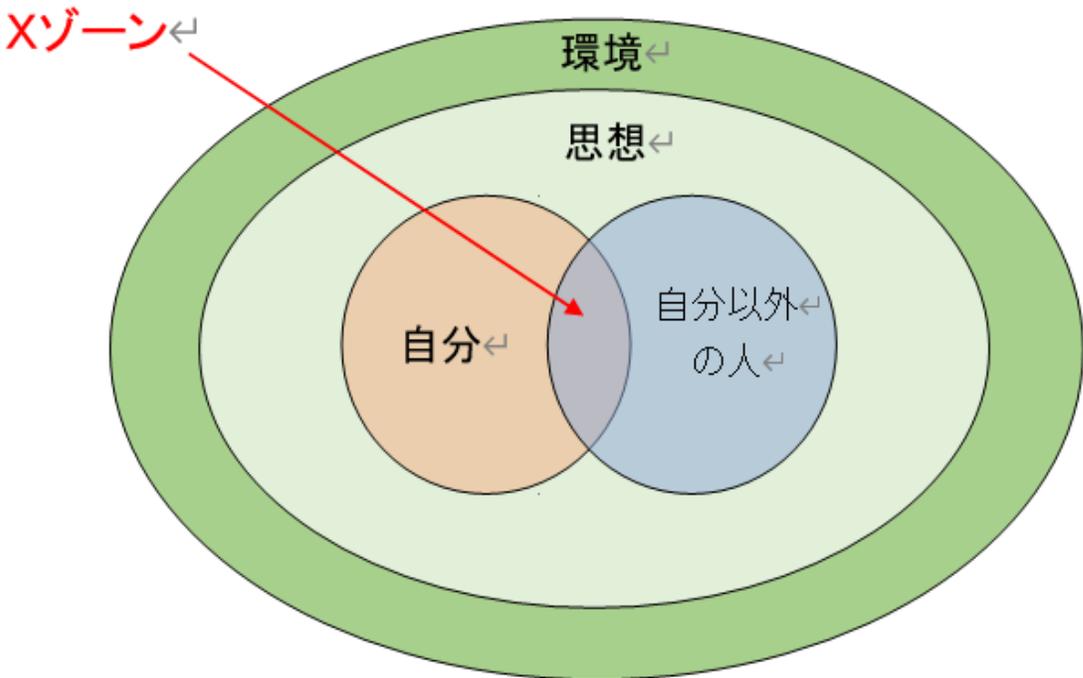
- ◆分類内容が「人」「幸せ」との関連性についてランク付けをし、今後、更に詳細解析をするかの判定
- ◆ピンク色が、今後詳細解析をするものとした
 - ・西洋哲学 東洋哲学 宗教
 - ・数理宗教学 生物学 教育学 人類学・考古学 歴史学 文学 芸術 心理学 計算機科学 工学 医学

目的の明確化

- ・「自分」は、一人で生きていけないし、「自分以外の人」がいなければ生きていけない。
- ・そして、「自分」と「自分以外の人」は全く異なる思想を持っている。
- ・更に、「自分」と「自分以外の人」は、同じか異なる環境の中にいるが、それぞれに持っている思想が異なるため、その感受性も大きく異なる。
- ・よって、「自分」と「自分以外の人」との人間関係「Xゾーン」が、環境や思想といった複雑系の中で、『人として何が大切か、真の幸せとは何か』のほとんどを決める要素であると考える。

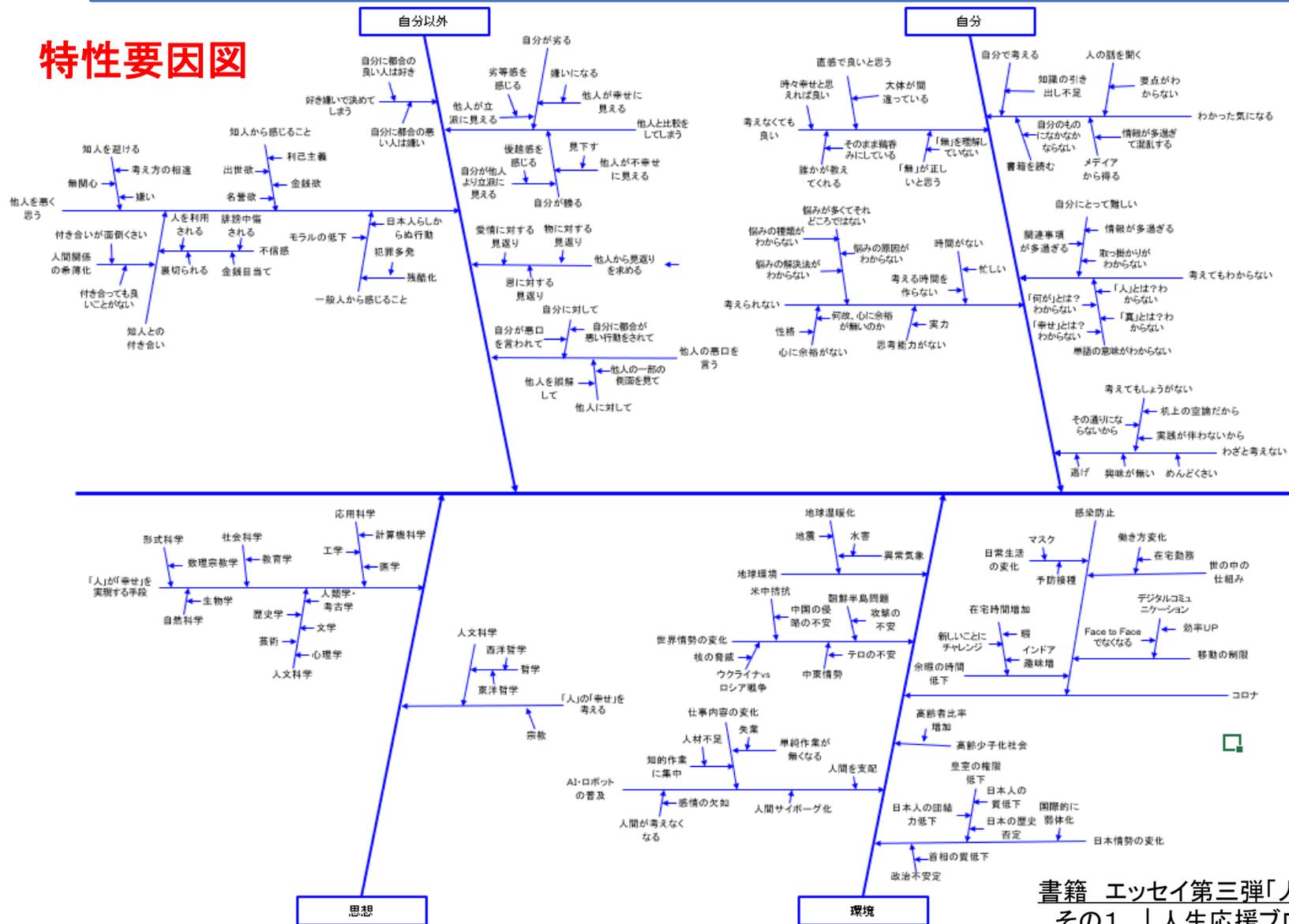
以上から本命題『人として何が大切か、真の幸せとは何か』の目的は以下とする。

目的：「Xゾーンを明確にする」



今後、特性要因図を使って詳細解析をしていく 目標: 2022年12月末

特性要因図



「人として何が大切か、真の幸せとは何か」

未来 2)2022年6月～ 地域貢献

今まで自分の面倒を見るのが精一杯で、「世のため、人のため」ができていない。
地域貢献を強化する。

自分ができること、特に自分しかできないことは無いか

- ・人間重視の考え方
- ・文章作成技術
- ・2年間で習得してきたホームページ&ブログ&SNS技術

地元地域ホームページ「大月 浅利の里」 2022年5月1日開設

<https://otsuki-asari.com/>

大月岩殿山城士「小山田信茂ブログ」 2022年5月1日開設

<https://oyamada-nobushige.com/>

大月市議会議員ホームページ 2021年5月1日開設



大月の政治、経済、人、歴史、生活、最新情報を手入手可能になり、加工して発信できるようになった

今後、種々情報を総合的に融合し、更に地域に貢献できないか、考えていきたい

(1) 芹沢文学 読破

平成7年～9年私は、芹沢光治良文学館 新潮社 全12巻(平成7年～9年発行)を将来の自身の心の財産にするために毎月購入していた。

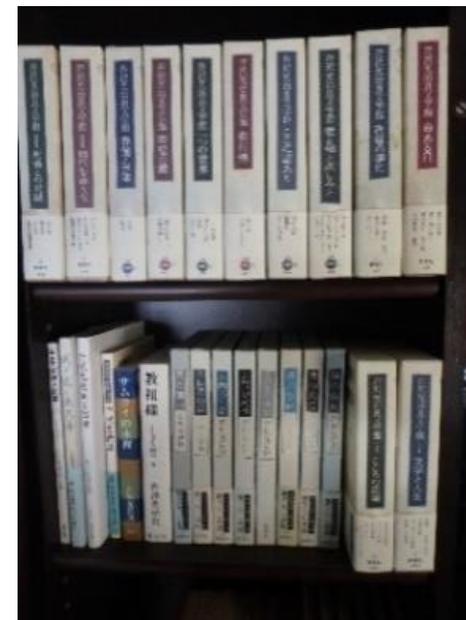
これから先、全12巻を熟読し、芹沢光治良観を再考察し、文章にまとめたい。

(2) 神シリーズ 再読

光治良先生に年齢が近くなりながら、再読し理解を深める。数年掛かるだろうが、これは私の修行である。

“父、芹沢光治良、その愛” から

父が九十歳になって神シリーズを書き続けた心境に自分も近づいているような気さえする。自分自身を磨き、精いっぱい生きて、自分の神性を大切に高めていくことによって、神が近づくことをこの歳になって知ることができた。



芹沢光治良文学館全12巻
と神シリーズ

勝呂奏先生のお話（2019年11月文学講演会）から
『神は人間が幸せになること、人間的に生きることを望んでいる。

光治良先生はその声を聞こうとしていた。

幸せの条件は人間的に生きることに考えていた。

光治良先生は人間的であることを追求し

- ・人間の生き方

- ・世の中のあり方

を真剣に考えて文学にしてきた。

「文学は もの言わぬ 神の意志に 言葉を 与えること」

“神シリーズ”は、神と納得いくまで語り尽くそうとしていた。

我々読者は光治良先生から「人間的に生きること」を考えるバトンを渡されている。

それを受けると受けないかは読者の判断になる。』

私は謹んで微力ながらそのバトンを受けさせていただきたい。

そして、自分自身が考える「人間らしく生きる」を追求していきたいと思います。

最後に、不破代表を始め愛好会の皆様には、このような有意義な報告の機会を
与えていただきまして、誠にありがとうございました。

芹沢光治良先生の具体的な教え

- 利他の心
- 家族を大切にすること
- 正しく生きること
- 神を敬うこと
- 文学は物言わぬ神に言葉を与えるもの
- 苦難の乗り越え方
- 物事の価値観
- 文章で自分の考えを訴えること
- 芸術(絵画、音楽等)の素晴らしさ
- 故郷の大切さ